

第44回

令和3年度

## 九州地区救護施設職員研究大会

地域のセーフティネット施設としての期待に応えよう



福岡県:福岡市

期日:令和3年7月9日(金)

オンライン研修会

主催:九州地区救護施設協議会

後援:全国救護施設協議会

## 目 次

■大会日程・プログラム	1
■開催要項	2
■対談：厚労省×全救協	4
厚生労働省 社会・援護局 保護課 課長 梶野 友樹 氏	
全国救護施設協議会 会長 大西豊美 氏	
■意見発表	
第1テーマ ①新型コロナ感染予防対策についての取り組み	5
銀杏寮 中山 真	
②新型コロナ感染予防対策実践後の課題解決に向けての取組み	11
よみたん救護園 金城 善史	
③コロナ禍における利用者支援について	18
かんざき日の隈寮 向野 亜里紗	
第2テーマ ①アルコール依存症者に対する個別支援計画の体系について	27
真和館 二上 達也	
②あいこう園における個別支援に向けた取組み	36
あいこう園 吉村 大輔	
第3テーマ ①記憶と名前のない生活困窮者の自立に向けた取組み～事例を通して救護施設でもできることを再確認～	42
菊池園 三笠 広宣	
②生活困窮者就労訓練事業（中間的就労）への取組みについて	49
しみず園 南里 眞一郎	
③地域社会での自立とブレンド	56
野の花 新里 朋子	
第4テーマ ①利用者の権利を守る取組み～チェックシートを通して芽生えた職員の絆～	64
すみよし 田原 清美	
■大会参加者名簿	70

# 大会日程・プログラム

【 7月8日（木）】

時 間	プログラム	会 場
13：30～15：00	大会打合せ及び最終確認	真和館
15：00～16：00	大会資料、PC動作、WEB状況等の動作確認	
16：00～16：30	各施設接続状況確認（テストメール送信）	

【 7月9日（金）】

時 間	プログラム	会 場
9:00 ～ 10:00	大会準備・動作確認	真和館
10:10 ～ 10:30	招待メール送信	
10:30 ～ 10:40	オリエンテーション	LIVE配信
10:40 ～ 11:00 (20分)	開会式 開会の言葉及び主催者挨拶 九州地区救護施設協議会 会 長 藤本 和彦	LIVE配信
11:00 ～ 11:45 (45分)	対談：厚労省×全救協 「地域共生社会に向けた救護施設の使命」 厚生労働省 社会・援護局 保護課 課長 梶野 友樹 様 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国救護施設協議会 会長 大西 豊美 様	録画配信
11:45 ～ 13:00	昼食・休憩	
13:00 ～ 14:40 (100分)	意見発表① ----- 第1テーマ「新型コロナウイルス感染症予防対策についての取り組み」 テーマに応じた意見発表 20分 × 3名 ----- 第2テーマ「利用者主体の個別支援に向けた取り組み」 テーマに応じた意見発表 20分 × 2名 ----- ※ 質疑については発表後にメールにて受付、後日回答。	LIVE配信
	14:40 ～ 14:55	
14:55 ～ 16:15 (80分)	意見発表② ----- 第3テーマ「利用者及び地域の生活困窮者の自立に向けた取り組み」 テーマに応じた意見発表 20分 × 3名 ----- 第4テーマ「利用者の人権擁護と虐待防止に向けた取り組み」 テーマに応じた意見発表 20分 × 1名 ----- ※ 質疑については発表後にメールにて受付、後日回答。	LIVE配信
	16:15 ～ 16:30 (15分)	

# 第44回九州地区救護施設職員研究大会開催要綱

## 1 趣 旨

新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活は大きく変化した。  
各施設においては細心の注意をもって施設内クラスターの発生を防ぐべく水際対策に力を入れ感染症対策の徹底に取り組んでいる。

九救協は私たちを必要とする方々のために、全力でセーフティネットの最前線を支え、地域のセーフティネット施設としての機能を発揮し、地域に信頼される福祉施設であることを発信していく必要がある。

そこで、九州地区の救護施設は全ての人が安心して暮らせる日常を一日も早く取り戻すためにも新型コロナウイルスを乗り越えるべく、取り組んでいる実践を共有し、直面する課題等について研究・討議することを目的に本大会を開催する。

## 2 メインテーマ

地域のセーフティネット施設としての期待に応えよう

## 3 主 催

九州地区救護施設協議会

## 4 後 援

全国救護施設協議会

## 5 期 日

令和 3年 7月 9日（金）

## 6 日 程

10:30      10:40      11:00      11:45      13:00      14:40      14:55      16:15      16:30

7/9 (金)	オリエン テーション	開会式	対談	昼休憩	意見発表	休憩	意見発表	閉会式
------------	---------------	-----	----	-----	------	----	------	-----

## 7 会 場

社会福祉法人 致知会 救護施設 真和館  
〒880-8512 熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子 3072 番地  
TEL: 096-279-1121 FAX: 096-279-1122

### 研修方法

WEBによるLIVE配信及び事前録画配信

## 8 参加対象者

- (1) 九州各県救護施設職員
- (2) 九州各県行政機関職員

## 9 大会次第

- (1) 開会式 LIVE配信

開会の言葉 及び 主催者挨拶  
九州地区救護施設協議会 会長 藤本 和彦

- (2) 対談：厚労省×全救協 事前録画 当日配信

「地域共生社会に向けた救護施設の使命」  
厚生労働省 社会・援護局 保護課 梶野 友樹 氏  
全国救護施設協議会 会長 大西 豊美 氏

(3) 意見発表 事前録画 当日配信

【第1テーマ】

新型コロナウイルス感染予防対策についての取り組み

・銀杏寮 (中山真)・よみたん救護園 (金城善史)・かんざき日の隈寮 (向野亜里紗)

【第2テーマ】

利用者主体の個別支援に向けた取り組み

・真和館 (二上達也)・あいこう園 (吉村大輔)

【第3テーマ】

利用者及び地域の生活困窮者の自立に向けた取り組み

・菊池園 (三笠広宣)・しみず園 (南里眞一郎)・野の花 (新里朋子)

【第4テーマ】

利用者の人権擁護と虐待防止に向けた取り組み

・すみよし (田原清美)

※ 意見発表者へのお願い

ア 意見発表者はテーマに基づき、20分以内の発表を行う。(大会運営上、時間厳守で  
お願いします)

イ 意見発表者は別紙「意見発表申込書」を5月28日(金)までに大会事務局(野の花)  
へ提出すること。

ウ 発表資料 (Wordもしくはパワーポイント) を6月11日(金)までに大会事務局  
(野の花)へメールで送信すること。

(大会資料作成の都合上、締め切り厳守でお願いします)

10 経 費

(1) 参加費 無料

11 参加申込方法

(1) 参加希望者は、別紙「第44回九州救護施設職員研究大会 参加申込書」に必要事項  
をご記入の上、5月28日(金)までに大会事務局(野の花)へFAX又はメールにて  
お申し込みください。

12 大会事務局

救護施設 野の花 (担当者: 松田 <sup>まつだ</sup> <sup>たかゆき</sup> 孝幸)

〒819-0165 福岡県福岡市西区今津 5324-5

TEL: 092-807-9987 FAX: 092-807-9988

E-mail: flower01@nonohana.or.jp

個人情報の取扱いについて

本研究大会の申込者、参加者にかかる個人情報は、本会「個人情報の保護に関する方針  
(プライバシーポリシー)」に基づき、適切に取り扱うこととしており、他の目的で使用す  
ることはありません。

# 対談：厚労省 × 全救協

## 「地域共生社会に向けた救護施設の使命」

厚生労働省 社会・援護局 保護課 課長 梶野 友樹 氏  
全国救護施設協議会 会長 大西 豊美 氏

Memo

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

【第1テーマ】

「新型コロナウイルス感染予防対策についての取り組み」

友愛会銀杏寮 中山 真

Memo

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

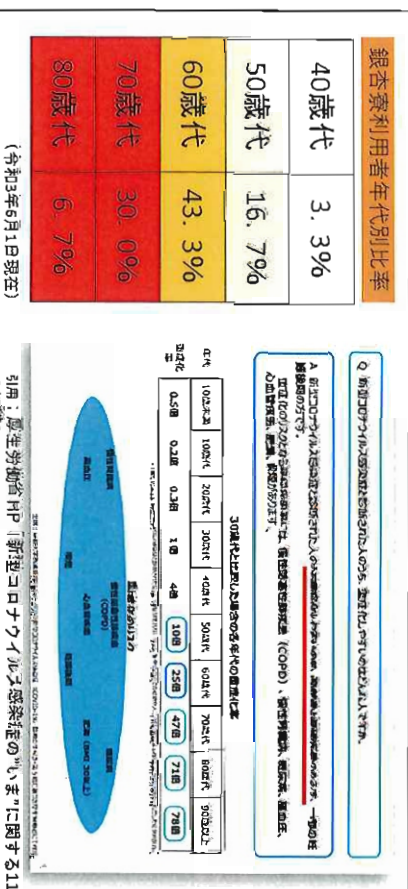
---

---

## 「新型コロナ感染予防対策についての取り組み」

友愛会銀杏寮 副主任・指導員 中山 真  
令和3年7月9日(金)

## 感染対策を行う意義①「ハイリスク年代中心の利用者」



## 感染対策を行う意義②「周辺環境」



## 新型コロナウイルスに関する「感染症対策委員会」開催状況

- 第1回...令和2年2月3日(月)**  
(現状での感染防止の方針と取組を決定。自治会にて利用者周知へ。)
- 第2回...令和2年2月17日(月)**  
(前回内容の見直し。国内感染拡大を受け、現状で行える取組を協議。)
- 第3回...令和2年2月22日(土)**  
(熊本市・県内感染者発生を受け**緊急会合**。具体的な対応を協議)
- ※以降、職員会議や毎日の引き継ぎ会等を利用し、新型コロナウイルス関連について協議。(第1回以降、32回の協議が行われた。)



## マニュアル「新型コロナウイルス感染症予防対策」等作成

- 「マニュアルの内容」
- I. 感染予防対策の目的
  - II. 新型コロナウイルスとは
  - III. 基本方針
  - IV. 入所施設における対応別紙(健康観察票、職員健康管理票)

### 対策の基本方針

「もらわない」、「持ち込まない」、「拡げない」(感染拡大防止)」

上記の方針を基に、「基本具体策」、「感染疑い者発見時初期対応」、「感染者発生時の対策」、「感染拡大防止対策」等を定めた。

## 基本方針別対策一覧

方針	対策実装内容
もらわない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い・手指消毒(カ所配置)・マスク配布、着用(布、不織布の使い分け)</li> <li>・外出の制限(日用品等購入は代行)・面会の制限・通院の代理受診</li> <li>・ソーシャルディスタンスを保つ(入浴等人数制限を設ける)・共有物の使用を控える</li> <li>・飛沫防止シールドの設置</li> </ul>
持ち込まない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館前の手洗い・玄関先での手指消毒・外出帰来後のマスク交換</li> <li>・来訪者の対応(立入制限)・入館する来訪者の検温、問診、記録</li> </ul>
拡げない、 (感染拡大防止)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有空間の消毒(2回/日)・共有物の使用中止や消毒・マスク配布、着用・常時換気</li> <li>・検温(体調を把握)・更衣(感染者発生時)・隔離室設置(バーニング対応)</li> <li>・防護服等備品準備・公用車内隔離用シールド準備(感染者移送用)</li> <li>・新入所者、外泊帰来者の経過観察</li> </ul>

## 友愛会銀杏寮における 「新型コロナウイルス感染症リスクレベル基準対応表」

友愛会銀杏寮において、リスクレベル基準表を一つの目安として判断し、今後の感染状況を注視し、都度、総合的に判断する。

熊本県新型コロナウイルス感染症リスクレベル基準対応表	銀杏寮対応の目安					
感染リスクレベル	外出	面会	同行買物	通院(医師)	業者立入	接待マス
レベル1・感染要報	×	×	×	処置通院のみ	×	不織布
レベル4・特別要報	×	×	×	処置通院のみ	×	不織布
レベル3・警報	○	×	×	代理受診	△	布可
レベル2・警戒	○	○	可	代理受診	○	布可
レベル1・注意	○	○	可	同行受診	○	布可
レベル0・平常	-	-	-	-	-	-

## 来館者用問診票と入館の記録

### 来館者用問診票

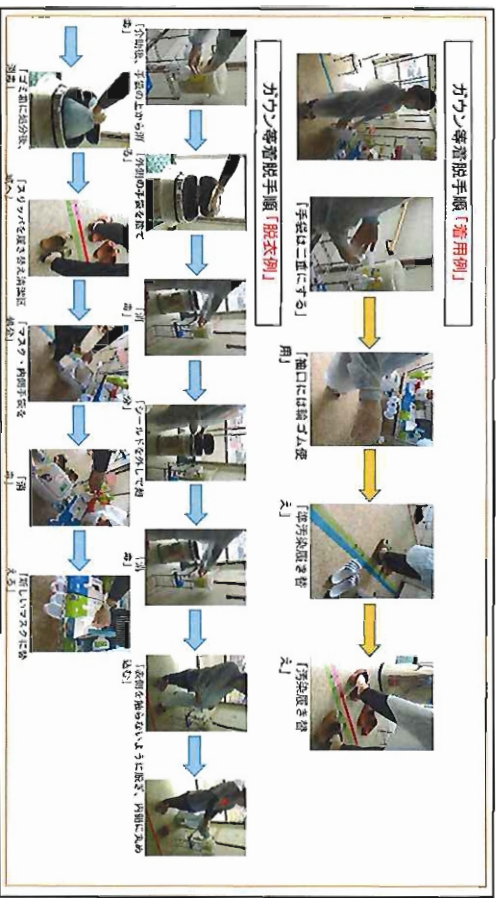
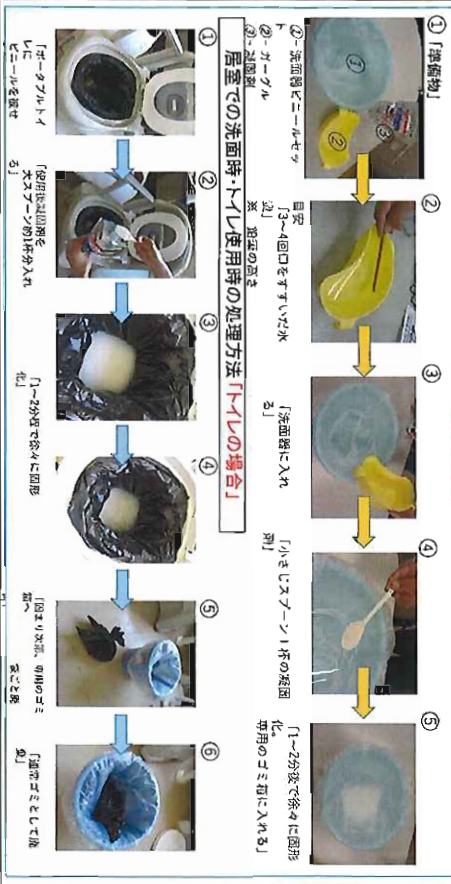
### 入館時間・体温の記録

来館者番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5
2	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5
3	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5
4	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5
5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5

## 感染対策一 隔離室状況



### 居室での洗面時・トイレ使用時の処理方法「洗面の場合」



## 職員の感染対策

- ・マスク配布(業務中・休日使用分)、冷蔵マスク(入浴介助中用)の配布
- ・アルコール携帯ボトルの所持
- ・勤務開始前の検温(A検温モニター使用、一覧に記入)
- ・通院介助時のマスク、都度交換
- ・公用車使用時の消毒(使用前:手指消毒、使用后:布巾で室内除菌)
- ・PCR検査の受検(月に1度、R3年6月は毎週受検)
- ・感染者発生時に限り、退勤時の更衣
- ・業務上共有備品の使用見直し(公用車運転前のアルコールチェッカー使用は中止)
- ・新入職員の歓迎会や退職者の送別会等職員交流会の中止

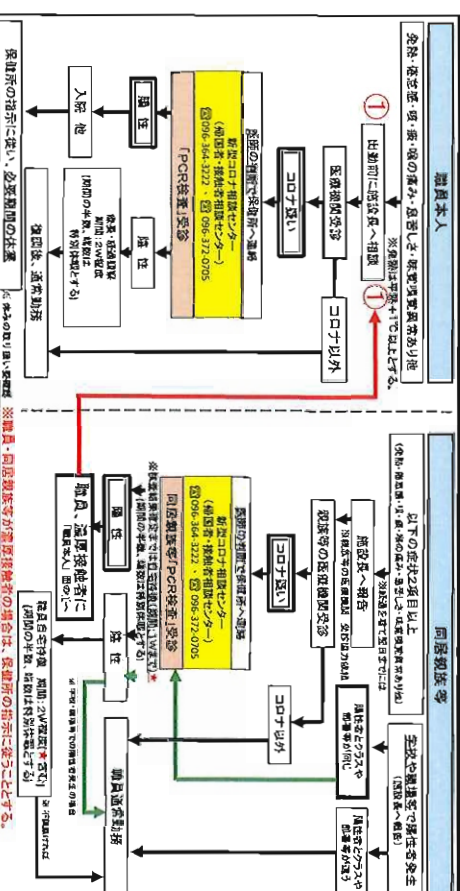
## 法人の対策

- 不要不急の外出に対する「注意喚起」
- 体調不良時の申出について
- 法人内の職員派遣の合意
- 公休の取り決め（特別休暇）
- 勤務時間短縮措置実施（期間：R3. 4. 30～5. 31）
- 「育児・介護休業規程」の適用（小学3年生以下の子どもを持つ職員対象）  
※R2年4月から熊本県立小学校臨時休校の決定を受けて
- 新型コロナウイルス感染症罹患（疑い）の行動フローチャート作成

## 利用者の生活支援

- 利用者の質問や要望
  - 「コロナはいつ終わりますか？」、「自由に外出したい。」、「買い物に行きたい。」、「外食したい。」、「夏祭りをやってほしい。」、「作業はいつからできますか？」、「家族と自由に面会したい。」、「聖参りに行きたい。」など
- 些細なことでも利用者間のトラブルが発生している。
  - 当たり前の生活が送れないことへのストレスは増している。

## 新型コロナウイルス感染症罹患疑い行動フローチャート(法人事務局作成)



## 利用者の生活支援②

- コロナに関する情報や対応は、こまめに明確に伝える心がける。
- 手洗い等の指導を繰り返し実施する。
- 利用者の変化に気づく。
  - （検温結果、表情や顔色や機嫌等、食事量、行事参加状況、交流状況等）
- 体調不良を言い出しやすい環境をつくる。
- ストレスケアに繋がる新たな行事等を計画・実施する。
- 職員間で利用者の情報を共有し、多くの目で見守る。

## 利用者の体力や筋力の低下防止及びストレス緩和のための取組

- ◎ 近郊散歩...駅周辺の公道を隔週でコースを替えて実施。
- ◎ 健康体操(2種)...職員指導および動画の活用にて実施。
- ◎ 映画会...平日の午後1に上映。
- ◎ オンライン面会...親族との交流を目的とする。
- ◎ ドライイデ企画...散歩に出られない利用者の対応。
- ◎ カラオケクラブ...毎週月曜日実施。
- ◎ 有償散髪が増員...寮内散髪希望者増に対応
- ◎ その他行事...感染防止に配慮し、密をさけて実施。



「映画会」



「カラオケクラブ」

## 現状と課題、今後の対応について

- 熊本市・県の新規感染者数は減少傾向。利用者や職員その他関係者に感染者は発生していない。(令和5年6月11日現在)
- 新型コロナウイルス接種を早急に計画していく。接種が済めば生活を取り戻す一歩となる。
- 万全の感染対策とはどのようなものか、評価を繰り返し対応の改善を図っていく。それこそが、利用者の生活を守ることに繋がる。

・※ご清聴、ありがとうございました。

① 【第 1 テーマ】

「新型コロナ感染予防対策実践後の課題解決に向けての取組み」

よみたん救護園 金城 善史

Memo

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

# 新型コロナウイルス感染症予防対策実践後の課題解決に向けての取り組み



沖縄県社会福祉事業団 よみたん介護園

## 目次

- ▶ 1. はじめに
- ▶ 2. よみたん介護園の紹介
- ▶ 3. 沖縄県のコロナ感染状況は怎么样了のか
- ▶ 4. コロナ禍により利用者の日常は怎么样了のか
- ▶ 5. 当園での感染予防対策は怎么样了のか
- ▶ 6. コロナ感染予防対策後に発生した新たな課題とは
- ▶ 7. 課題解決に向けた取り組みとは
- ▶ 8. 課題解決の取り組み効果は
- ▶ 9. おわりに

## 1. はじめに

世界的にまん延している新型コロナウイルス。未知のウイルスに生活が脅かされました。現在国内では、ククチン接種が徐々に実施されつつありますが、1年経過してもなお、新型コロナウイルスへの対応に追われています。園では、利用者の特性を鑑みると、ウイルスを施設内に持ち込まれたとたん、感染拡大していくことが目に見えています。感染予防の重要性を園全体で意識し、感染予防対策の徹底や感染症に対する意識を高めていく一方で、また新たな課題が発生しています。今回の発表では、その課題解決に向けた取組を紹介します。

## 2. よみたん介護園の紹介



### 3. 沖縄県のコロナ感染状況はどうか？

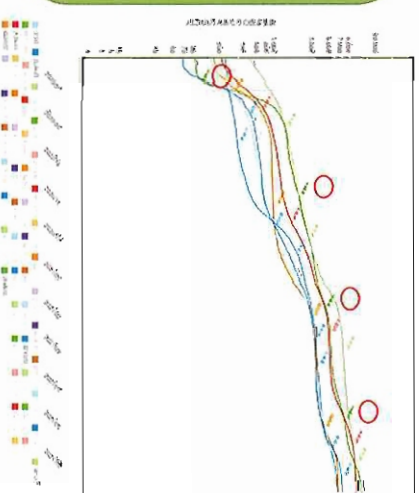
沖縄県のコロナ感染状況は、昨年から、夏場の観光シーズンや黄金週間の観光客の流入と地元においては、夜型社会の集団飲酒の機会が多いことによるクラスター発生が多々見られ、そのような背景下で、本県は大都市（東京首都圏・大阪近郊・福岡等）や北海道と並び、全国の中でも絶えずクラスターに位置するような感染状況にあります。このような事態を受け、年中通して、緊急事態宣言発令及び蔓延防止等重点措置発令の期間が他県より多くなっています。

### 4. コロナ禍による利用者の日常はどうか？

新型コロナウイルスが感染拡大していく中、利用者の日常も変化し、心身に影響をもたらしています。

まず、利用者みなさんが、毎年楽しみにしている地域共催事業の中止、年間行事の内容変更、及び一部中止をせざるを得ない事態が続いています。外出する楽しみが失われ、フラストレーションがたまるといっています。

人口100万人あたりの都道府県別コロナ新規感染数（22年8月～23年6月）



右の人口100万人あたりの感染数においては、折れ線グラフの通り、沖縄県は、昨年の夏から観光客の流入に伴い、大きく増大しながら、東京都とクラストを競いながら、高止まり傾向は依然と変わらない状況が続き、今年のゴールデンウィークを経て、クラスト1位となっている。

### 利用者の日常の変化について

#### ①中止となった主な行事等

- （地域共催事業）  
那覇村福祉運動会  
那覇村福祉納涼祭り  
那覇まつり
- （年間行事）  
一時帰省  
故郷訪問  
のびのび音楽祭
- （迎活動プログラム）  
図書館利用

#### ②内容変更となった主な行事等

- ・日帰り観光→BBQ（近隣のビーチにて2回に分けて開催）へ変更。
- ・浜下り  
一人数を分散し、2回に分けて実施。  
しかし、県のまん延防止等重点措置が発令され、2回目が中止、急遽園内にテイク（個別レベル）に切り替えた。
- ・被服購入 → 一人数をグループに分けて実施。

行事の様子 (BBQ、浜下り)



## 5. 当園での感染予防対策とはどういうものか

1. 手洗い、うがい、手洗い講習
2. 手指消毒
3. エクス着用
4. 換気 (1日3回)
5. 施設内 (手すり等) のアルコール消毒
6. 外出・面会の制限
7. 検温 (職員の出動時・外部からの来訪者)
8. 職員向け感染対策研修
9. 感染症対策委員会の開催

※利用者には、外出を控えさせているため、特に、**職員によるウイルスを持ち込まないことを徹底!**

手洗い講習の様子



感染対策の最も有効な対策は: ➡ **ウイルスを持ち込まない**

感染の広がりは、外から持ち込まれます。利用者は外出制限や面会などの外部の人との接触を制限することで、ある程度シャットアウトできます。しかし、職員はそう右いきません。絶えず、外部との接触が想定される職員については、日頃の体調管理はもちろんです。通勤時や病院受診の同行の際には、基本的な感染対策を怠らずにしっかりと行うことを徹底していきます。



～ある日の職員の日～



①出勤 出勤前に、自宅にて検温。37.5度以上は出勤を控える。



②手指消毒 施設内に入る前に、アルコール消毒を行う。



③検温チエック タイムレコーダーにチエックを入れる際、同時に検温実施。37.5度以上の場合、上司へ報告、勤務を控える。

～ある日の職員の日～



④記録 出勤日の朝の体温を記録票に記載する。また、上司や同僚に、体調の自己申告を行う。



さあ、今日も1日がんばるぞ。

●帰宅時  
ユニフォームから私用に着替える、手指消毒をして帰宅します。

⑤ユニフォームに着替える 利用者の生活空間に菌を持ち込まないよう、更衣室にてユニフォームに着替える。

更なる職員の感染対策

更なる職員の感染対策として、職員の人事管理面において、過度な疲れから体調不良を招かないよう、勤務体制の工夫を行っています。例えば、介護職は、3日連続勤務後は翌日を1日休みとしています。体調管理は自己管理が主になると思いますが、顔色や表情に気を配り、日頃から、上司や同僚から声を掛けたりするなど、ウイルスへの免疫力の低下を招くストレスを職員が感じないような職場環境作りを心がけています。



掲示で  
注意喚起

顔色、  
体調良好し。

6. コロナ感染予防対策後に発生した新たな課題とは

- ▶ コロナ禍により、これまでの日常の集い以外での集行事等が取り止めになったこと
- ▶ 緊急事態宣言中や蔓延防止措置発令中に、利用者においては、外出禁止等になったこと



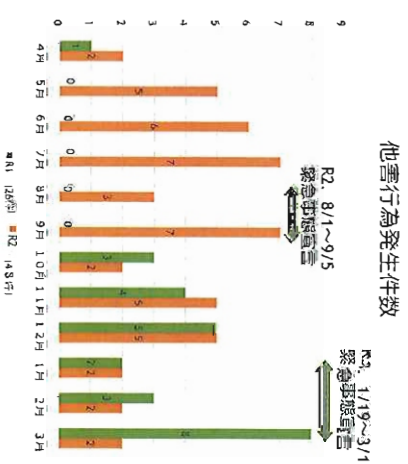
- ・ ストレスの増大による不穏な言動の増加
- ・ 粗暴行為・他害行為の増加
- ・ 活動量の低下
- ・ 啓蒙・啓発不足
- ・ 緊急性を除き、病院受診を控えたことで、受診に対する不満が発生

緊急事態宣言等に伴う当施設の外出・外泊・面会制限期間

- ① R2. 4/10～5/25 (4 6日間)
  - ② R2. 8/1～9/6 (3 7日間)
  - ③ R3. 2/7～3/1 (2 3日間)
  - ④ R3. 3/29～4/21 (2 4日間)
  - ⑤ R3. 4/22～現在 (2ヶ月以上)
- R2年度計 106日間  
R3年度計 90日間

○問題行動の発生

心身の影響は、問題行動に表れてきています。特に、他害行為が増加するという課題が浮き彫りとなりました。感染予防対策としての、外出・外泊・面会の制限をすることで、発生件数増加へとつながっています。



7. 課題解決に向けた取り組みとは

イライラや不安感等の精神的な不調から、粗暴行為・他害行為の増加につながりやすい状況を受け、少しでも緩和するため、日々の日課活動に加え、少人数グループに分けた室内レクを増やしています。余暇活動がマンネリ化しないよう内容も工夫して取り組んでいます。

- (例)
- ▶ ミニスポーツレク
  - ▶ 映画鑑賞会
  - ▶ 茶話会
  - ▶ クッキング
  - ▶ (ヒラヤチー、餃子ピザ作り等)
  - ▶ カラオケ大会
  - ▶ たご焼きパーティー
  - ▶ わたあめ作り

取組例① ミニスポーツレク、映画鑑賞会



## 取組例②クッキング、カラオケ大会



## 8. 課題解決の取り組み効果は

- ・利用者のインフルエンザ罹患率0（ゼロ）
- ・新型コロナウイルス罹患率0（ゼロ） R3.6月現在
- ・感染症について考える機会が増え、意識が高まった
- ・室内活動に目を向け、内容を工夫するようになった
- ・少人数単位での活動が増え、個々の楽しみの満足度が向上した
- ・担当職員と利用者とのコミュニケーションが増えた

## 9. おわりに

自衛隊生活が長引くことにより、さらには中絶のリスクを減らすために、  
 生活がしやすい環境づくりを推進し、新型コロナウイルスの感染防止に  
 取り組むことにより、感染防止の意識が高まり、活動の場が広がりました。  
 また、課題を共有し、互いに学びあうことで、利用者一人ひとりの  
 生活の質を向上させ、心身の健康を維持し、生活の楽しさを味わう  
 ことができるようになりました。今後も、利用者一人ひとりの生活の質を  
 向上させ、心身の健康を維持し、生活の楽しさを味わうことが  
 できるようになります。

ご静聴  
ありがとうございました





## 佐賀整肢学園・かんざき日の限寮

# コロナ禍における 利用者支援について

佐賀整肢学園・かんざき日の限寮  
入所サービス課主任 向野亜里紗

## 新型コロナ 1回目の緊急事態宣言

- ・2020年 4月7日 7都府県に緊急事態宣言  
東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡
- ・4月16日 全国を対象に宣言拡大
- ・5月14日 39県で緊急事態宣言 解除

## 職員の感染症対策 1

### 検温子エック (1日2回)

職員検温表

氏名	1日		2日		3日		4日	
	出勤時 13時	出勤時 13時	出勤時 13時	出勤時 13時	出勤時 13時	出勤時 13時	出勤時 13時	
1 〇〇〇〇〇	・	・	・	・	・	・	・	
2 〇〇〇〇〇	・	・	・	・	・	・	・	
3 〇〇〇〇〇	・	・	・	・	・	・	・	
4 〇〇〇〇〇	・	・	・	・	・	・	・	
5 〇〇〇〇〇	・	・	・	・	・	・	・	
6 〇〇〇〇〇	・	・	・	・	・	・	・	
7 〇〇〇〇〇	・	・	・	・	・	・	・	
8 〇〇〇〇〇	・	・	・	・	・	・	・	
9 〇〇〇〇〇	・	・	・	・	・	・	・	

### 健康子エック

職員健康子エック表

氏名	1日		2日		3日		4日		5日	
	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族
1 〇〇〇〇〇										
2 〇〇〇〇〇										
3 〇〇〇〇〇										
4 〇〇〇〇〇										
5 〇〇〇〇〇										
6 〇〇〇〇〇										
7 〇〇〇〇〇										

※出勤時に〇～良好、△～やや不良、×～不良を記入してください。  
「△」や「×」については医師へ報告をお願いします。

## 職員の感染症対策 2

### フェイスシールド・携帯アルコール



### 感染症対策用洗濯機 (職員用)



## 職員の感染症対策 3

### 感染症対策研修会



回	日時	テーマ
1	9/8	飛沫感染と空気感染について等
2	10/6	濃厚接触者の定義について等
3	11/17	感染症の経過と治療について等
4	12/15	クラスターについて等
5	1/19	感染発生時の対応について
6	2/16	院内感染における注意点について等
7	3/16	ワンタッチ接種スケジュールについて等

## 設備の感染症対策 1

### 事務所内シールド設置



事務所内シールド

### 休憩室のシールド・人数制限



休憩室は最大3名まで

## 設備の感染症対策 2

### 診察室・看護師作業室のシールド



診察はシールド越しに実施



看護師作業室

## 設備の感染症対策 3

### 面会・来客対応



面会はシールド越しに実施

### パーティションの設置



外部の方は玄関先まで

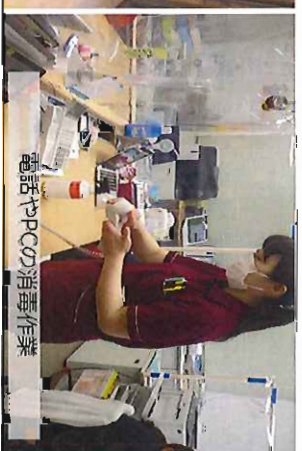
## 設備の感染症対策 4

### 感染症対応専用車両の整備



## 施設内の感染症対策

### 職員による消毒作業



## 利用者支援の感染症対策 1

### 食堂入室時の手指消毒



### 壁・一方を向いての食事



## 利用者支援の感染症対策 2

### 間隔を空けて待機



### 支援時にはフェイスガード着用



## 感染状況ステージに合わせた活動目安

コロナ禍での、佐賀県内(神埼市)ステージごとの日課・環境整備・その他行事・就労等の活動目安 2021年4月14日現在

ステージ	①入浴支援	②洗濯当番	③日課(レク/学習活動)	④日課(環境整備)	⑤買物支援	⑥利用者の士気維持活動(共有スペースの確保等)	⑦就労関係
1	週3回 利用員との接触を減らす	マスク着用での利用員へのサービス	行事予定の通り ※貸出稼働は2回 (10:00~13:00)	自主買物 収入行進OK	マスク着用での移動時 ※貸出稼働は2回以内 ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用	感染対策要としての 取組とする	
2	週3回 利用員との接触を減らす ※貸出稼働は2回以内 ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用	マスク着用での利用員へのサービス	行事予定の通り ※貸出稼働は2回 (10:00~13:00)	自主買物 収入行進OK	マスク着用での移動時 ※貸出稼働は2回以内 ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用	感染対策要としての 取組とする ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用	
3	週3回 利用員との接触を減らす ※貸出稼働は2回以内 ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用	マスク着用での利用員へのサービス	行事予定の通り ※貸出稼働は2回 (10:00~13:00)	自主買物 収入行進OK	マスク着用での移動時 ※貸出稼働は2回以内 ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用	感染対策要としての 取組とする ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用	
4	週3回 利用員との接触を減らす	マスク着用での利用員へのサービス	行事予定の通り ※貸出稼働は2回 (10:00~13:00)	自主買物 収入行進OK	マスク着用での移動時 ※貸出稼働は2回以内 ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用	感染対策要としての 取組とする ※利用員はマスク着用 ※利用員はマスク着用	

## 夏期・冬期 衣類購入支援

ユニクロ佐賀鍋島店様へ貸切対応 カタログ選択へネット通販利用



## 買い物支援について

漸増段階

急増段階

爆発段階

- 職員1名につき利用者2名まで引率可
- 職員代行支援
- 職員代行も見合わせる
- 宅配利用の検討
- 職員代行支援

## テイクアウト昼食会 1

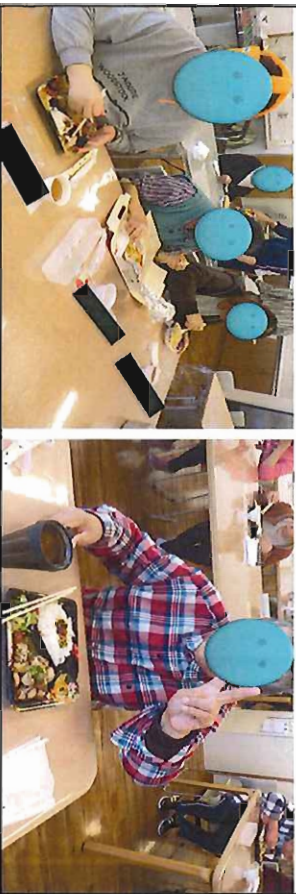
寿司の出前 (8月)





## テイクアウト昼食会 2

洋食弁当 (11月)



## テイクアウト昼食会 3

パン食 (毎月1回)



## オンライン中継 クリスマスライブ

書道シンガー・友近やっくん



## コロナ禍での就労支援活動

シールド着用しての就労参加



## コロナ体制での食提供訓練 1

### 防護服 (PPE) の着用



## コロナ体制での食提供訓練 2

### 使い捨て容器に配膳

### 居室ごとに配食



## コロナ体制での食提供訓練 3

### 配食の様子

### 食事の様子



## 事前準備・ゾーニング 1

### 3階 感染者対応隔離部屋 (レッドゾーン)



## 事前準備 ・ ズーミング 2

職員待機部屋 (グリーンゾーン)

モニター観察



## 事前準備 ・ ズーミング 3

左グリーン・右レッドゾーン入口

階段・エレベーター封鎖



## コロナ禍での実習生受け入れ 1

概要説明など講義形式の実習



## コロナ禍での実習生受け入れ 2

利用者とのコミュニケーション【ZOOM使用】



感染症対策の中での一時入所対応

パーテーションで仕切り



学習支援対応



佐賀整肢学園・かんざき日の限寮

ご清聴ありがとうございました。



【第2テーマ】

「アルコール依存症者に対する個別支援計画の体系について」

真和館 二上 達也

Memo

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



**【目次】**

1. 真和館のアルコール依存症回復支援の歩み
2. 真和館の個別支援計画の体系
3. アルコール依存症回復支援の課題
4. 羅針盤の策定
5. アルコール依存症者に対する個別支援計画体系
6. まとめ

①開設当初の5年間  
**入所者の半数近くが、アルコール依存症であった。**  
**「飲まない、飲ませない」** 取り組みに力を入れてきた。  
(開設2～3年目) 館内における隠れ飲酒の対応に苦慮  
 (開設4～5年目) 2～3人の方が、外出や自宅に帰った際に飲酒

②5～6年目以降  
 誰一人飲まなくなりました。そこで、  
**「飲まない、飲ませない」** 取り組みから  
**「地域に出てからも、飲まない、飲ませない」**  
 取り組みが始まり、さらに2～3年すると、地域移行の実績が始められた。

### ③開設10年「ARPP」の完成

平成27年度末、これまでの取り組みを体系化した

### 「真和館アルコール依存症回復プログラム(ARPP)」を策定

カリキュラムに基づいて、今日まで着実にアルコール学習を進め、地域移行の実績を積み重ねている。

### ④開設15年「羅針盤」の策定

令和2年度末、回復支援を効率化するためのシステムである

### 「真和館アルコール依存症回復支援羅針盤」が完成

※令和3年度から、このシステムを活用し、アルコール依存症からの回復支援の効率化に力を入れていく。

5

## 2. 真和館の個別支援計画の体系

6

真和館に入所されるアルコール依存症の多くの方は、何度も何度もアルコール専門病院を退院しては、スリッパし、再入院を繰り返した末に、どうしようもなくなり、真和館につながった方々です。

#### 【現状】

入所者の皆さんが、真和館での生活に目標を持ち「いきいきとした日々」を過ごしていただくために、一人ひとりの希望や思いを大切にすると個別支援の策定を目指しています。

《問題点》 書類作りに追われ、労力の割には成果が上がらない

《改善点》 成果が上がるよう毎年改善を重ねている

#### 【特色】

- ①個別支援計画の様式は、**真和館独自の様式**を使用
- ②計画のための計画にならないよう、**評価**に力を入れた取り組み

※評価に当たり、入所者一人ひとりの状況を丁寧に観察しなければなりません。また、職員間の連携の向上が欠かせません。

7

#### 【体系】

### ①アセスメント

アセスメントシートを作成する。

### ②計画の策定

個別支援計画・援助方針を作成する。

### ③教育・訓練

・アルコール依存症の学習会(ARPP)や、知的障害や精神障害の学習会も行われている。  
・各人の障害に応じた個別学習にも、力を入れている。

### ④評価

進行管理表(四半期ごと評価)

8

### ① アセスメント

(R3.1月に様式を改訂、R3.2月分より実施)

氏名	性別	年齢	学年	学年別学力検査	学習状況	生活状況	心身機能	学習態度	その他

氏名	性別	年齢	学年	学年別学力検査	学習状況	生活状況	心身機能	学習態度	その他

※心身の状況や  
持っている能力の分析

- ・心身機能
- ・身辺自立
- ・参加
- ・行動の特徴
- ・治療と学習

本人から聞き取りを行い、  
担当者の所見を書き記す

### ③ 教育・訓練の実施

氏名	性別	年齢	学年	学年別学力検査	学習状況	生活状況	心身機能	学習態度	その他

1. 学習の進捗

2. 生活の自立

3. 心身の健康

4. 学習態度

5. その他

### ② 目標(本人)と援助方針の策定

氏名	性別	年齢	学年	学年別学力検査	学習状況	生活状況	心身機能	学習態度	その他

援助方針の策定

本人の目標

援助者の目標

援助方針

### ④ 評価 (進行管理表)

氏名	性別	年齢	学年	学年別学力検査	学習状況	生活状況	心身機能	学習態度	その他

評価項目

評価結果

評価者



### 3. アルコール依存症回復支援の課題

学習が進んでくると、「アルコールの学習は十分できた」「もう飲まない」「地域に出て大丈夫」と自分を過信し、退所を急いだりされる。

- ① どのような状態（あるべき姿）になれば回復し、地域に出られるのか
- ② その期間がどのくらい必要なのか、定かではなかった

そこで、  
退所するための回復状況と期間を明示できないか

具体的に示せれば、

**モチベーションが向上するのではないか**と考えた

アルコール依存症の方が、寛和態に入所し、飲まれなくなったとしても、心身の状況は

- ① アルコール依存症者特有の心身の不調（離断症状・フライトランク・後遺症）がある
- ② 精神構造が病んでいるため、自分勝手な主張をし、何事も人のせいにする
- ③ 飲みたいがゆえに、嘘をついても外出しようとする
- ④ 精神症状や障害等による生きづらさの出現

アルコール依存症の方は、職員にとって、  
**実に扱いにくい方であり、扱いにくい病気である。**

### 4. 羅針盤の策定

入所から退所までの回復の流れを見える化する

## 「クリニカルパス」 のようなものを作りたい!

「クリニカルパス」  
とは病名・疾患で入院する病室に、科別・病棟・診断・検査・手術・投薬・看護・リハビリ・指導等を入力から退院まで計画にした要領・ステップ及び担当が明確な共有するためのシート図で、東証ほぐれなどの病院で取り入れられています。

今までの15年にわたる真和館の経験と、各種記録、そして回復者の体験を基に、  
今回、新たに2つのツールを開発する。

- ①一人ひとりの現状や問題点を示す  
**真和館アルコール依存症回復支援羅針盤 (基本体系)**
- ②現時点での回復状況を評価する  
**真和館アルコール依存症回復支援羅針盤 (評価尺度)**

※既存の「真和館アルコール依存症回復プログラム(ARP)」に上記の2つを加えることにより、総合的・体系的・効果的なシステムとなる。

## (評価尺度)

### 【1. 強い飲酒欲求】

① 飲酒問題に悩まされている

1	飲酒問題に悩まされている
2	飲酒問題に悩まされている
3	飲酒問題に悩まされている
4	飲酒問題に悩まされている
5	飲酒問題に悩まされている

② アルコール依存の深まり

1	飲酒問題に悩まされている
2	飲酒問題に悩まされている
3	飲酒問題に悩まされている
4	飲酒問題に悩まされている
5	飲酒問題に悩まされている

③ 心身のセルフコントロール力

1	飲酒問題に悩まされている
2	飲酒問題に悩まされている
3	飲酒問題に悩まされている
4	飲酒問題に悩まされている
5	飲酒問題に悩まされている

### 【2. 心身の不調】

③ 飲まない期間の短縮

1	飲酒問題に悩まされている
2	飲酒問題に悩まされている
3	飲酒問題に悩まされている
4	飲酒問題に悩まされている
5	飲酒問題に悩まされている

④ 入所時

1	飲酒問題に悩まされている
2	飲酒問題に悩まされている
3	飲酒問題に悩まされている
4	飲酒問題に悩まされている
5	飲酒問題に悩まされている

### 【3. 探求・発見】

④ 入所時

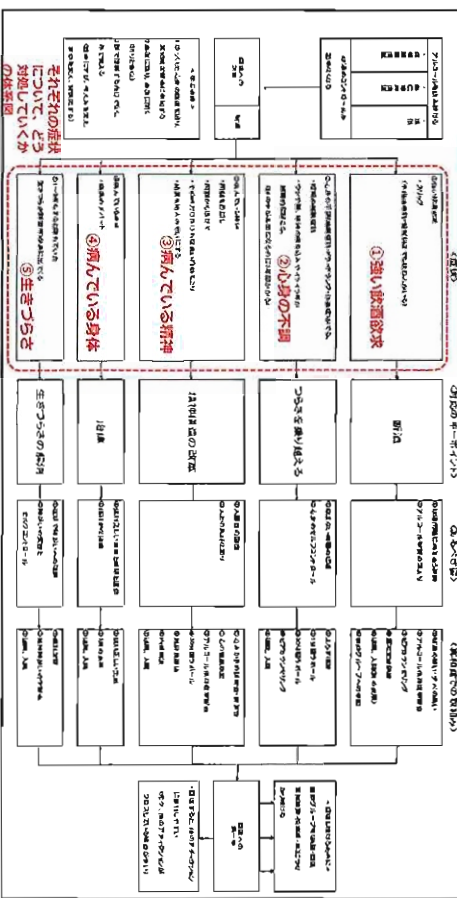
1	飲酒問題に悩まされている
2	飲酒問題に悩まされている
3	飲酒問題に悩まされている
4	飲酒問題に悩まされている
5	飲酒問題に悩まされている

⑤ 退所時

1	飲酒問題に悩まされている
2	飲酒問題に悩まされている
3	飲酒問題に悩まされている
4	飲酒問題に悩まされている
5	飲酒問題に悩まされている

※各項目への対応の結果、どのように回復しているかを、5段階で評価するための尺度

## (基本体系)



## ① 飲酒問題に向き合う姿勢

1	否認し、自分はアルコール依存症ではないという話をする。
2	自分の力でやめられると思っている。
3	回復を望み、やめたい気持ちが強くなる。
4	自分の過去を振り返り、人生をやり直そうという意欲が湧く。
5	アルコール依存症に悩む人へ自分の経験を伝え、力になる行動をとるようになる。

### ③ 飲まない時間の経過

1	3ヶ月未満
2	3ヶ月以上6ヶ月未満
3	6ヶ月以上1年未満
4	1年以上3年未満
5	3年以上

21

### ⑤ 人間性

1	人を責め、人の短さがしをする。
2	自分の手を認めず、責任を取ろうとしない。
3	善悪の判断がつかくようになり、ルールを守れるようになる。
4	反省や繰り返し返りができるようになる。
5	何事にも感謝の気持ちが強くなる。

22

### ⑦ 障害の理解とセルフコントロール力

1	心身の不調が頻き、訴えやトラブルが多い。
2	心身の調子が悪く、精神状態が安定しない。
3	薬面になり、別の精神症状が出てくる。
4	障害等に真実に向き合い、生きづらさの学習に取り組むようになる。
5	障害等を受け容れ、付き合うことができるようになる。

23

### ◆ 評価測定 (総合評価)

＜イメージ＞



### “見える化”を図る

実施回数は基本4回。

- ① 入所1ヶ月後
- ② 入所1年後
- ③ 入所2年後
- ④ 入所3年後

※作成したものを前回と比較し、回復度合いを評価し、今後の取り組みを検討していく。

24

【羅針盤とは】

羅針盤とは、一言で言えば、アルコール依存症の方を、基本、真和館で3年間回復訓練をし、地域移行や施設移行を促進するためのシステム(仕組み)であります。

※回復訓練の期間…3年間  
真和館の継続および各種重症を相俣としている。  
また、薬面に関するのに3年かかるためと書かれている。

## 5. アルコール依存症者に対する個別支援計画体系

### 【アルコール依存症者に対する個別支援計画体系】

【既存の個別支援の体系】

※アルコール依存症者の個別支援には、以下が取りまじった

- ① **アセスメント** (※心身の状況や特である部分の分析)
  - ・アセスメントシートを作成する。
  - ・**真和館アルコール依存症回復支援羅針盤** (評価尺度)
  - ・ナラチイヴ・アセスメント
- ② **計画の策定**
  - 個別支援計画・援助方針を作成する。
- ③ **教育・訓練**
  - ・アルコール依存症の学習会(ARPTP)
  - ・知的障害や精神障害の学習会も行われている。
  - ・各人の障害に応じた個別学習にも力を入れている。
- ④ **評価**
  - ・進行管理表 (四半間ごとに評価)
  - ・**評価測定表** (入所1ヶ月後・1年後・2年後・3年後の4回実施)

### ◆ナラチイヴ・アセスメント (R3.1月に様式を作成、R3.2月より実施)

ナラチイヴ		アセスメント	
項目	内容	項目	内容
1	過去の出来事 (トラウマ等の把握)	1	過去の出来事 (トラウマ等の把握)
2	入所前に困っていたこと	2	入所前に困っていたこと
3	まだ残っている課題	3	まだ残っている課題
4	本人の特性	4	本人の特性
5	依存症について	5	依存症について
6	価値観	6	価値観
7	今後、望む生活	7	今後、望む生活
8	努力目標	8	努力目標

※ナラチイヴ(物語)による  
本人の生活歴等の把握

- ・過去の出来事 (トラウマ等の把握)
- ・入所前に困っていたこと
- ・まだ残っている課題
- ・本人の特性
- ・依存症について
- ・価値観
- ・今後、望む生活
- ・努力目標

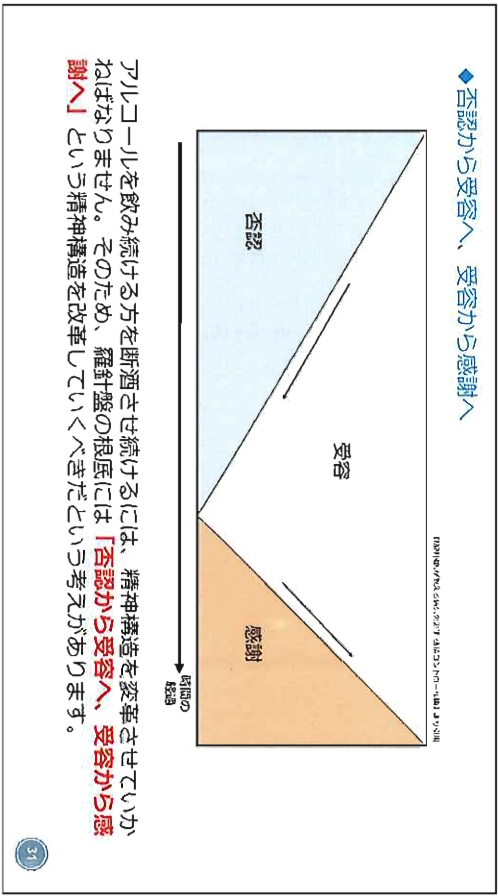
ナラチイヴから、現状を把握し、改善策を探し出す

◆寛和館アルコール依存症回復評価測定表

3127-2-1-400 回復評価測定表		5/16/21	
項目	1	2	3
1. 回復評価			
2. 回復評価			
3. 回復評価			
4. 回復評価			
5. 回復評価			
6. 回復評価			
7. 回復評価			
8. 回復評価			
9. 回復評価			
10. 回復評価			
11. 回復評価			
12. 回復評価			
13. 回復評価			
14. 回復評価			
15. 回復評価			
16. 回復評価			
17. 回復評価			
18. 回復評価			
19. 回復評価			
20. 回復評価			
21. 回復評価			
22. 回復評価			
23. 回復評価			
24. 回復評価			
25. 回復評価			
26. 回復評価			
27. 回復評価			
28. 回復評価			
29. 回復評価			
30. 回復評価			
31. 回復評価			
32. 回復評価			
33. 回復評価			
34. 回復評価			
35. 回復評価			
36. 回復評価			
37. 回復評価			
38. 回復評価			
39. 回復評価			
40. 回復評価			
41. 回復評価			
42. 回復評価			
43. 回復評価			
44. 回復評価			
45. 回復評価			
46. 回復評価			
47. 回復評価			
48. 回復評価			
49. 回復評価			
50. 回復評価			

※依存症に関する回復度を測るアセスメント  
本人と職員がそれぞれ5段階評価をし、今後の目標等について一緒に考える。

6. まとめ



ご清聴ありがとうございました

【第2テーマ】

「あいこう園における個別支援に向けた取り組み」

あいこう園 吉村 大輔

Memo

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

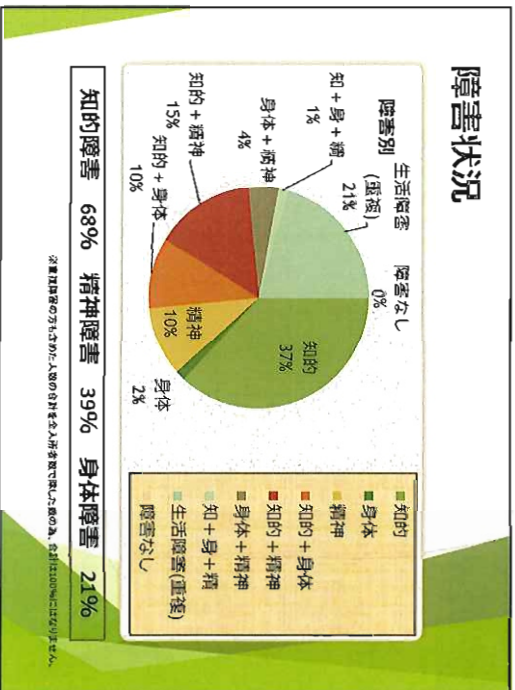
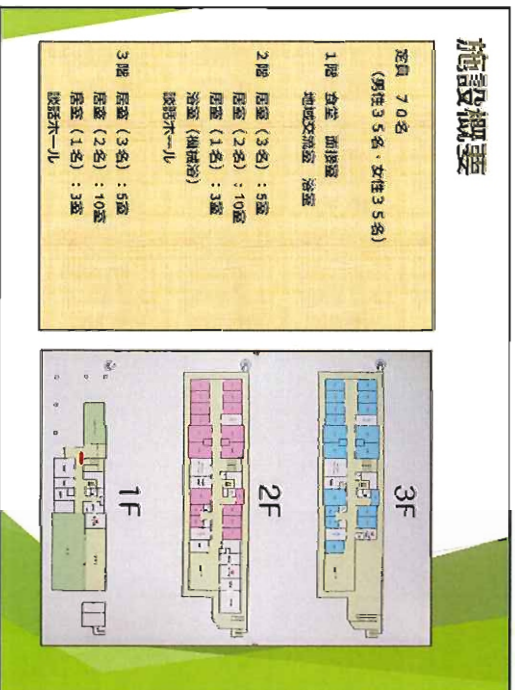
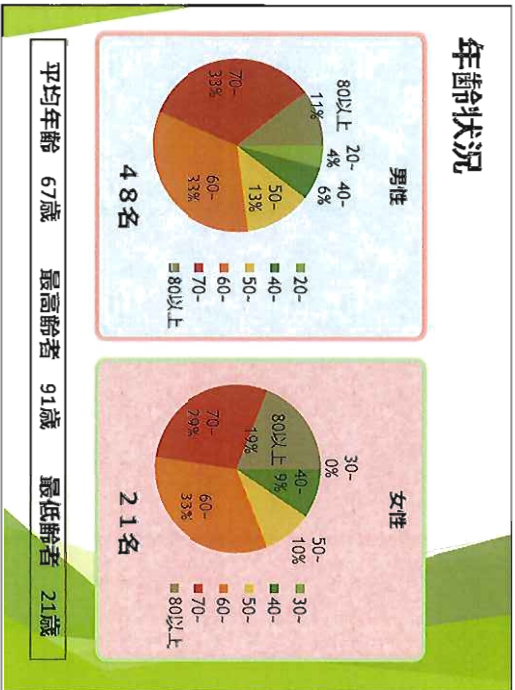
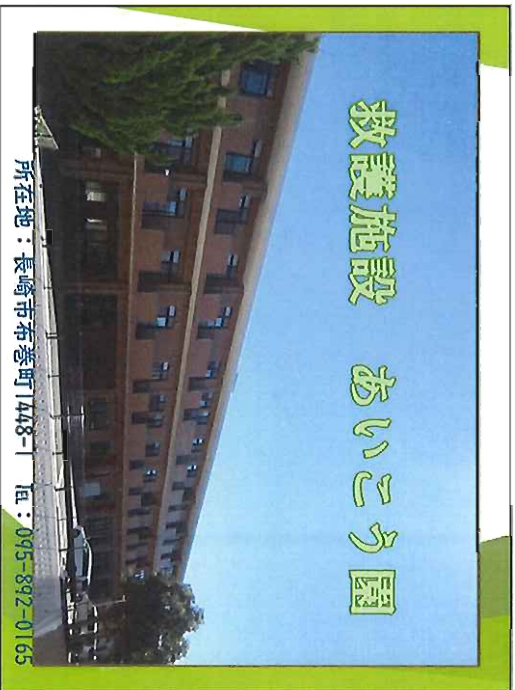
---

---

---

---

---



## 手帳所持状況

### 身体障害者手帳

- ・ 肢体4名 (2級2名、5級1名)
- ・ 視覚5名 (1級2名、4級1名)
- ・ 内部2名 (1級2名)      ・ 言語1名 (3級1名)
- ・ 聴覚2名 (2級1名、4級1名)      計 11名 (9・3)

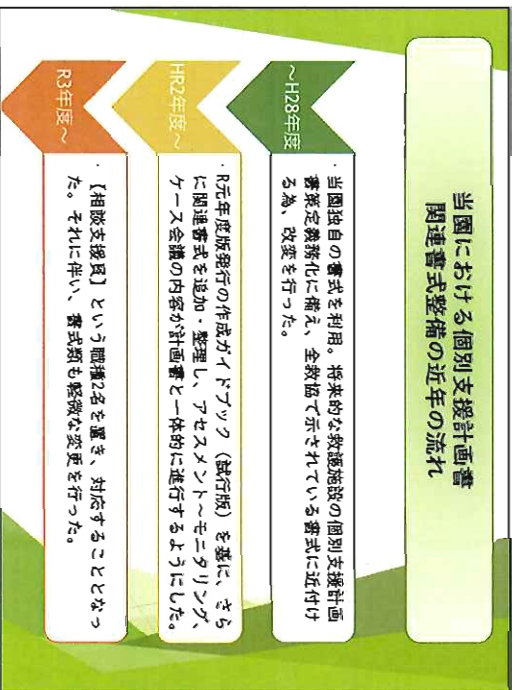
### 療育手帳

- ・ A1 2名・A2 13名      計 32名 (16・16)
- ・ B1 13名・B2 4名

### 精神保健福祉手帳

- ・ 1級 0名      ・ 3級 3名
- ・ 2級 4名      計 7名 (5・2)

## 当園における個別支援計画書 関連書式整備の近年の流れ



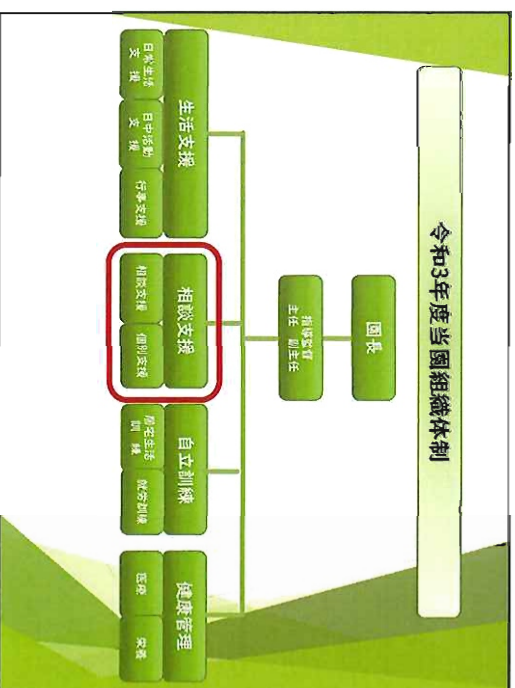
## あいこ園が行っている主な事業

○**居宅訓練事業**  
利用者が円滑に居宅生活に移行出来る様に、施設において居宅生活に向けた生活訓練を行うと共に、施設外に訓練用の住居（アパートや保養所）を確保し、居宅生活に近い環境で実践的に生活訓練を行う移行支援事業です。

○**就学訓練事業**（清掃作業・風作業・介護補助）  
園内利用者  
・ 園外利用者（地域の生活困窮者）の参加も受け付けています  
あいこ園では…生活自立施設における支援、毎日定時に始り（出勤）出来る等、社会参加を促していく事で必要な生活習慣の形成のための指導・訓練を行っています。

○**一時入所事業**  
・ 一時的に居宅での生活が困難となった生活保護を受けられている方をとて、短期的に施設に受け入れ支援することにより、再度居宅での生活を可能にする事が目的。

## 令和3年度当園組織体制





### 個別支援計画書作成体制について



### アセスメント (職員視点)

【アセスメントシート】

利用者 氏名 ○○○○ 性別 ○ 年齢 ○ 職別 ○

記入日 ○○○○年○月○日

作成者 ○○○○

1. 基本情報に関する事項

氏名	性別	年齢	職別
住所	連絡先	連絡先	連絡先
入居開始日	退居予定日	入居理由	退居理由
利用開始日	退居予定日	利用開始理由	退居理由

2. 生活の状況に関する事項

1. 生活リズム	生活リズム	生活リズム
2. 食事	食事	食事
3. 衣服	衣服	衣服
4. 衛生	衛生	衛生
5. 入浴	入浴	入浴

3. 支援の必要性に関する事項

1. 生活リズム	生活リズム	生活リズム
2. 食事	食事	食事
3. 衣服	衣服	衣服
4. 衛生	衛生	衛生
5. 入浴	入浴	入浴

4. その他

5. 備考

### アセスメント (利用者視点)

利用者の希望・要望

氏名 ○○○○

性別 ○ 年齢 ○

記入日 ○○○○年○月○日

作成者 ○○○○

1. 生活の状況に関する事項

1. 生活リズム	生活リズム	生活リズム
2. 食事	食事	食事
3. 衣服	衣服	衣服
4. 衛生	衛生	衛生
5. 入浴	入浴	入浴

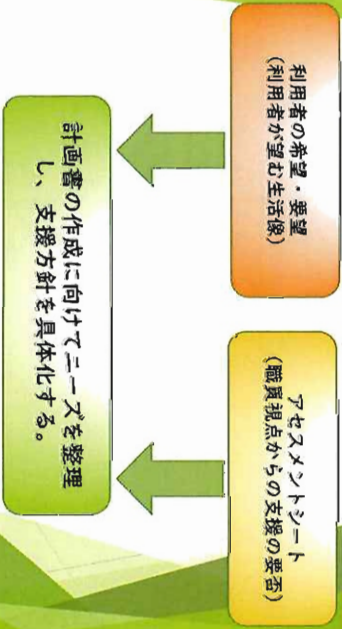
2. 支援の必要性に関する事項

1. 生活リズム	生活リズム	生活リズム
2. 食事	食事	食事
3. 衣服	衣服	衣服
4. 衛生	衛生	衛生
5. 入浴	入浴	入浴

3. その他

4. 備考

### ニーズの整理



### 計画書

機関名: \_\_\_\_\_ 担当部署: \_\_\_\_\_

所属: \_\_\_\_\_ 職名: \_\_\_\_\_

実施期間: \_\_\_\_\_

実施内容: \_\_\_\_\_

目的: \_\_\_\_\_

達成指標: \_\_\_\_\_

実施方法: \_\_\_\_\_

実施スケジュール: \_\_\_\_\_

実施場所: \_\_\_\_\_

実施担当者: \_\_\_\_\_

実施日: \_\_\_\_\_

実施時間: \_\_\_\_\_

実施回数: \_\_\_\_\_

実施費用: \_\_\_\_\_

実施効果: \_\_\_\_\_

実施課題: \_\_\_\_\_

実施評価: \_\_\_\_\_

### モニタリングと評価

モニタリング

実施内容

実施スケジュール

実施担当者

実施日

実施時間

実施回数

実施費用

実施効果

実施課題

実施評価

### 支援の実施とケース会議

ケース会議シート

実施日時: \_\_\_\_\_

実施場所: \_\_\_\_\_

実施担当者: \_\_\_\_\_

実施内容: \_\_\_\_\_

実施効果: \_\_\_\_\_

実施課題: \_\_\_\_\_

実施評価: \_\_\_\_\_

### まとめ

令和2年度

令和3年度

令和4年度





# 記憶と名前の無い生活困窮者の自立に向けた取り組み

介護施設 菊池園  
介護支援員 三笠広宣

## 1. 施設紹介



## 2. 施設概要

居宅生活訓練事業	
平成28年 1月15日～平成29年 11月 5日	男性 1名
平成28年 1月15日～平成29年 11月15日	女性 1名
平成29年 12月 1日～平成30年 7月12日	女性 1名(中止)
平成29年 12月 1日～令和元年 11月30日	男性 1名
平成30年 8月 1日～令和元年 8月 2日	男性 1名(中止)
令和元年 9月 4日～令和2年 7月31日	女性 1名(中止)
令和元年 12月 1日～令和3年 3月15日	N氏 1名
令和2年 7月21日～	男性 1名
令和3年 4月 1日～	男性 1名

## 3. はじめに

ここ数年で菊池園には「記憶を失った」ケースの方の入所が続いた。  
なぜここに居るのか「名前」すら覚えていない青年が、菊池園から「地域へ」自立した生活を目指し、就籍から就労までの取り組みと過程を報告する。

#### 4. 対象者紹介 (入所時)

氏名：(仮称) N氏  
性別：男性  
生年月日：(仮) 平成11年8月7日 (20歳)  
入所日：令和元年8月20日  
状態：記憶がなく、名前も思い出せない  
携帯電話等の連絡手段や身分を証明するものも所持しておらず、わずか数十円の金銭のみ  
診断：全生活史健忘症 (記憶喪失)

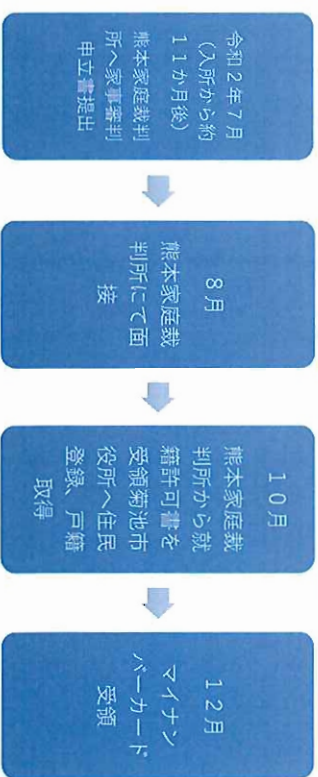
#### 5. 総合的な支援方針

- ・戸籍を取得する (就籍)
- ・日記をつける
- ・居宅生活訓練を実施する
- ・生活に楽しみを見出してもらう

#### 6. 取り組み (居宅生活訓練)



#### 6. 取り組み (就籍)



## 6. 取り組み (就労)



## 7. 就労と地域生活への移行へ

令和3年 4月  
就籍、就労、そして一人で生活する力を身に付けて、寮のある大分県へ、菊池園としても支援が終了した

## 8. この話には続きがありません…

退所から7日後、N氏が寮から姿を消し失踪

その後…

大阪府西成区『あいりん地区』にて生活保護申請  
(退所から約1ヶ月後)

## 9. 疑問

菊池園が取り組んだ支援は果たして「成功」と言えたのか

## 10. 結論ー1

居宅生活訓練事業、就籍、  
就労に「間違い」ではない。  
就労は「間違い」ではない。  
しかし「成功」したと言  
えない。

## 10. 結論ー1

居宅生活訓練事業、就籍、  
就労に「間違い」ではない。  
就労は「間違い」ではない。  
しかし「成功」したと言  
えない。

## 10. 結論ー2

- 理由① 地域生活への移行はゴールではなく、あくまでも「自立」へのスタート地点
- 理由② そのスタート地点までに色々な準備やサポートを提供すること自体が、救護施設の役割。取り組んできたこと自体は決して「間違い」ではない。
- 理由③ そもそも「成功」かどうかは本人が決定すること。支援者側が、何らかの物差しを使って図り知ることには出来ない。

## 11. N氏の支援を通して

- ・ 591日間、行ってきたことは「間違い」ではない。
- ・ 次のステップに繋がられた時点で「意味」がある。
- ・ 私たち救護施設、及び携わる職員の評価は「成功」や「失敗」の二択ではない。



## 1 2. 就労支援についてー1

一方で…

最後のセーフティネットとして、生活  
救護施設に來られる方、就労支援は  
に移行するにあたり、就労支援は  
難しいのではないか。

## 1 2. 就労支援についてー1

最後のセーフティネットとして、生活  
救護施設に來られる方、就労支援は  
に移行するにあたり、就労支援は  
難しいのではないか。

## 1 2. 就労支援についてー2

- 理由① 救護施設に訓練や体験の場が少ない
- 理由② 本人の望む仕事に就くと自体が難しい
- 理由③ 本人に起因する課題が解決出来ない

## 1 3. 最後に

その人の「出来そう」と思っていること、  
「やってみたい」ことを見付ける手助け  
+  
本人の「少しでも好きになろう」とする気持ちと  
努力  
↓  
就労支援の本当の1歩目

ご清聴ありがとうございました。



生活困窮者就労訓練事業（中間的就労）への取り組みについて

～事例を通して救護施設でもできることを再確認～

社会福祉法人 天籟会  
救護施設 しみず園

地域運携室 南里真一郎

### ①生活困窮者就労訓練事業（中間的就労）とは

「自立相談支援機関のあつせんに応じて、就労に困難を抱える生活困窮者を受入れ、その状況に応じた就労の機会を提供するとともに、生活面や健康面での支援を行う事業」

- ・非雇用型：雇用契約を締結せず、訓練として就労を体験する
- ・雇用型：雇用契約を締結し、支援付きの雇用を行う

**目標：一般就労につなげることが目的**

### 発表内容の流れ (20分)

- ①生活困窮者就労訓練とは (3分)
- ②導入のきっかけと経緯 (4分)
- ③事例紹介 (10分)
- ④救護施設でもできること (3分)
- ⑤しみず園の概要 (ご参考までに)

### 対象者は？

- ・すぐには一般企業等で働くことが難しい方
- ・長期離職者、ニート、ひきこもり、心身に課題があったり、精神疾患を抱える方、生活保護受給者など
- ・就労訓練事業の対象者に該当するか等、自立相談支援機関のアセスメントに基づき判断された方

## 就労訓練のイメージ



## まず、施設内の社会資源の整理

就労訓練を受入れにあたり、園で行っている作業(就労)を整理

現にしみず園入所者にて実施している作業を整備

- ①外作業(野菜畑)
- ②軽作業(紙折作業)
- ③洗濯業務
- ④厨房での皿洗い



## ②導入のきっかけと経緯

平成28年：「救護施設が取り組む生活困窮者支援の行動計画 第2次行動指針」

フエーエAとして明記される

平成28年6月：行動指針に沿ってしみず園において検討会を開始。

平成28年8月：佐賀県より「就労訓練事業」の事業所として認定される。

※「就労訓練事業」は都道府県等による認定事業

項目	内容
1. 事業の目的	生活困窮者に対する就労支援の推進
2. 事業の概要	就労訓練事業の実施
3. 実施の経緯	平成28年6月の検討会を経て実施
4. 実施の体制	支援付雇用型・非雇用型の実施
5. 実施の成果	就労者の増加
6. 今後の課題	支援体制の強化

## 職員の情報共有

### 【職員の意見】

- ・なぜ外部の方を受け入れる必要があるのか？
- ・入所者の支援で手いっぱいなのに・・・
- ・なんのために行うのか？
- ・どのような支援が必要？ 目標は？ 期間は？ 職員配置は？ 担当は？



## 目的と支援目標の明確化・確認

(不安を抱えながら、手さぐりでのスタート)

### ③事例紹介

#### 【基本情報】

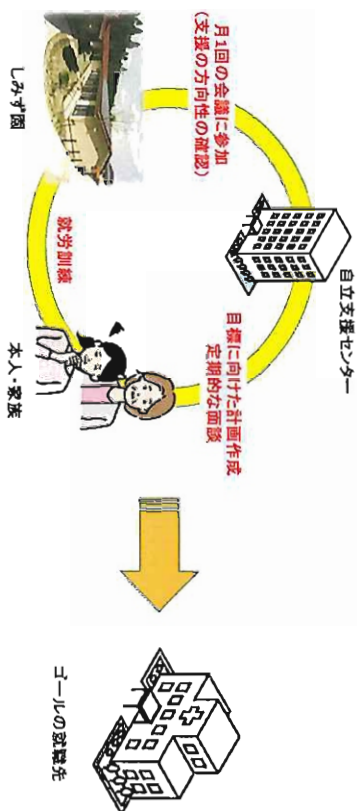
Yさん・女性・40代  
 障害等：療育手帳の申請をしたが、該当せず  
 生活歴：高校卒業→美容室勤務歴あり（清掃・洗濯等）  
 得意：黙々と業務を行える  
 不得意：コミュニケーション

#### 【本人の希望と悩み】

- ①将来が不安
- ②希望する職業に就職したい
- ③効率よく働けるようになりたい



### Yさんを取り巻く関係機関



### 就労訓練 (開始→非雇用型→雇用型へ)

平成29年11月：就労訓練開始 (洗濯業務・非雇用型/1日800円/半日400円)

月曜～金曜の週5日・9時～12時の3時間

目標：週5日 午前中の仕事ができるようになる

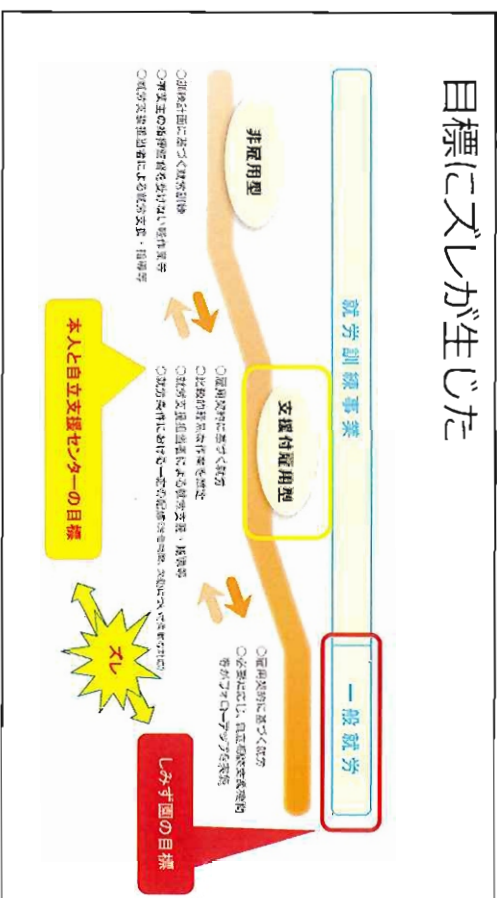
平成30年3月：9時～16時まで時間を延長

目標：週5日 1日6時間 働けるようになる

令和元年7月：雇用型 (1時間/最低賃金) での就労開始 (雇用契約の締結)  
 目標：希望する職種への一般就職へ向け取り組もう

令和 2年2月：自立支援センターと本人・家族の目標がしみず園就職となり  
 目標達成→自立支援プログラム終結  
 (しみず園と意見が異なり、協議！)

### 目標にズレが生じた



## 目標の再確認

- ・ 本人、家族は最低賃金での給与がもらえることにより 目標を達成したとの認識。
- ・ 自立支援センターも本人と家族の希望聞き取りにより 目標を達成できたと認識。
- ・ しみず園は、正社員で雇用してもらえ就職先を探すべき。  
(最低賃金での給与での満足でなく、もっと上を目指してほしい)



【目標の再設定】  
正社員を目標に就職活動をしよう！！



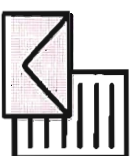
## 目標である一般就職に向けて！

- 令和2年 7月 自立支援センターの職員と適正検査を受けられる
- 令和2年10月 本人希望で介護講習に参加
- 令和2年12月 介護講習を受けた結果、  
最終目標を介護施設への就職へ設定  
本格的な就職活動開始  
老人ホームにて職場体験を実施
- 令和3年 1月 就職先が老人ホームに決定。
- 令和3年 2月 就職先ではパソコンスキルも必要であった為  
無料のパソコン講習を受講



## ゴール！

- 令和3年3月31日 しみず園 就労訓練終了
- 令和3年4月1日 老人ホームにて準社員での就労開始
- 令和3年5月 お礼の手紙が園に届く (感動)
- 令和3年6月 近況確認  
もくもくと業務をこなし、正社員へ向け頑張られている



## 残された課題と今後の目指す方向

- 【残された課題】  
・ 中間的就労を受入れるにあたって、利用希望者への説明が不十分  
(説明する内容が整っていない)



【今後の目指す方向】  
【就労継続支援A型事業所の利用契約書】  
と同等の契約書を目指す

## 最後に： 救護施設でもできることの再確認

- ・就職を決め、本人からのお礼の手紙を読んだとき  
→救護施設でも**生活保護受給者に限らず地域に貢献することができる。**
- ・成年後見制度、市民後見人、家屋清掃、困りごと相談・・・  
→地域には表には出てこない隠れたニーズ (困った方) がたくさん。
- ・救護施設が地域の中でできることを再確認。
- ・広い視野で地域を見て、社会福祉法人として、救護施設として**施設の機能、職員**の力を発揮できる。

## 開始から結果まで (非雇用型での就労)

- ◆就労開始当初：自分のやりたいことが何か分らない。色々経験したい。
- ◆はじめに：農作業→軽作業 (紙折り) →厨房での血洗い→厨房での補助業務  
※目標：**まずは何か好きか、何かできるかを分かるようになる。**  
**様々な就労体験を通し、厨房での業務に興味を示される**
- ◆施設内でのゴール：厨房での補助業務 (野菜切りなど) を継続して行う。  
(週5日/10時～13時の3時間 就労)
- ◆結果：希望する調理関係の職には就けなかったが、  
駐輪場の管理会社への就職が決定し、中間的就労は終了

## 時間が余れば・・・ (非雇用型の事例)

- 【基本情報】  
Sさん・男性・20代  
障害等：なし  
生活歴：高校卒業→短大卒業→定職につけず・・・  
得意：ゆつくりとではあるが、仕事は丁寧にできる  
不得意：自分の意見をはっきりと言えない。(決められない)
- 【本人の悩み】  
・定職につきたいが、面接で全て断られる  
・自分のやりたいことがわからない。

## しみず園の概要(参考)



社会福祉法人天籟会

- ・昭和38年設立 (多久市東多久町)  
→平成19年 新築移転 (多久市多久町)
- ・利用者定員110名
- ・職員：37名  
→社会福祉士4名・精神保健福祉士3名・介護福祉士14名・看護師3名  
栄養士2名・調理員7名





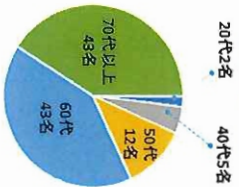
# しみず園の概要 入所者の現状 (参考)



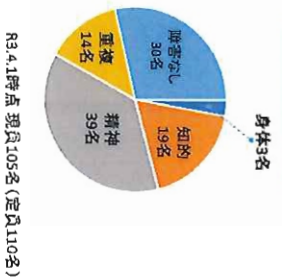
## 性別



## 年齢



## 障害状況



【第3テーマ】

「地域社会での自立とブレンド」

野の花 新里 朋子

Memo

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

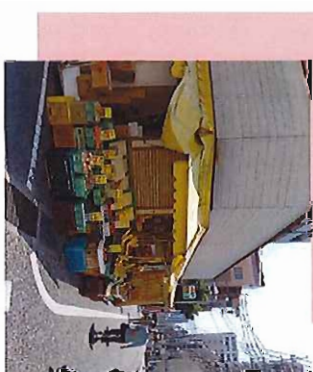
---

---

利用者及び地域の生活困窮者の  
自立に向けた取り組み

# 地域社会での 自立とブランド

社会福祉法人 野の花学園 救護施設 野の花



## 自立に向けての取り組み

### 主要トピック

- 施設紹介 救護施設野の花
- 利用者の自立への問題点
- 施設内での取り組み
- 居住先を探す
- 問題は解決し自立へと至るのか
- 退所後も必要な支援（事例）
- 地域での自立した生活を支える

## 救護施設 野の花

福岡市唯一の救護施設

豊かな自然と緑に囲まれた、  
閑静な田園地帯に囲まれています。  
職員、利用者のモットーは、  
「明るく」「いきいき」「へこたれず」





## 地域社会での自立とブランド

利用者及び地域の生活困難者の自立に向けた取り組み

## 利用者の自立に向けての問題


- ・ 救護施設に入所に至った経緯
  - ・ 借金や自己破産
  - ・ 生活能力の低さ（健康、金銭、コミュニケーション能力）
  - ・ 知的障がいや精神障がいの疑い
  - ・ 仕事や家が見つからない（保証人がいない）
  - ・ 相談できる身内や友達がいない
- ・・・その他たくさん

## 受け入れと安心できる環境の提供

- ① ショック
- ② 否認  
人のせいにしたり、トラブルを引き起こしたり
- ③ 混乱  
入所に至った原因への混乱と否認、将来への不安
- ④ 適応への努力  
問題への受け入れと努力

一人ひとりの目標 個別支計画書 利用者アンケート	日中支援 生活訓練 日中活動	自立に向けた 施設内での 取り組み
手帳の取得 必要に応じて 障がい者手帳 申請や取得の手伝い	就労にむけて 施設外就労訓練 ハローワーク同行 履歴書やマナー	居宅生活訓練 定員 5名

居宅生活訓練  
(定員5名)



**生活費の管理**  
食費やお小遣いの管理  
家計簿の作成

**生活訓練**  
そうじ、洗濯  
健康管理(嗜好品、栄養、内服)  
連絡報告相談

**日中活動**  
ハローワーク同行  
日中活動の提案  
(福祉サービスへの実習)

施設退所後の居住地・・・  
ありとあらゆる手をつくす。

居住支援法人の利用	ワンルーム型 グループホーム
居住先の 緊急連絡先	市営住宅申し込み 養護施設や高齢者住宅 社宅

救護施設  
野の花  
支援状況

定員50名  
令和2年度

4	就労自立
16	居宅移行
12	障がい グループホーム



自立した生活を  
地域で過ごしているのか？  
ここからが本題だったりする・・・

そんな簡単に  
人の生き方は変わらない。

金銭管理が難しく、月末には食費がない。  
家賃、電気、水道光熱費など支払いが滞る。  
新しい環境が不安でたまらない、どうしたらいい。  
病院を受診していない、薬を飲んでない。  
アルコールやギャンブルの再開による生活リズムの乱れ  
仕事やめちやったよ～  
近隣やヘルパーと喧嘩した  
・・・more

<b>金銭管理訓練</b> 通帳の預かり 支払いの確認 銀行手続の手伝い	<b>健康管理</b> 初回の病院受診 内服状況の確認 必要に応じた受診	<b>退所後も 必要な支援</b>
<b>就労の支援</b> ハローワーク同行 職場訪問 愚痴をきく	<b>日中活動</b> 食事やクッキング 情報交換 趣味活動	

<b>施設退所後 地域での支援</b>	
	<b>保護施設通所事業</b> (R2年度) 訪問 10名 通所 10名
	<b>赤い羽根福祉基金</b> (R1年度) <b>退所者フオロアップ事業</b> 必要に応じた相談支援や訪問 OB会
	<b>その他</b> 相談支援事業所の開設 (H31) グループホーム増設・自立生活援助 自立訓練事業所 (R3.8月開所)



## 事例紹介

自立に向けた支援

※紹介する事例につきましては、  
発表への承諾を頂いております。

## 金銭管理が難しいA子さん

仕事は自分なりに頑張る。  
生活を圧迫しても買いたい物がやめられない

- ・社会福祉法人野の花で雇用
- ・居宅生活訓練 + 仕事 + 福祉事務所への返還金
- ・施設退所、社宅へ単身生活
- ・通帳の預かり支援（保護施設通所事業）
- ・年金 + 給与収入（保護廃止）
- ・通帳の預かり支援、相談（赤い羽根事業）



## 施設退所後に妊娠 自分で育てたい C子

福祉サービス利用の不安  
隔わる支援者が少なく、どうしていいのかわからない

- ・アパートへ単身生活
- ・妊娠中の買いたい物や生活支援（赤い羽根）
- ・出産後、保護施設通所事業（訪問）利用
- ・子どもやC子の体調確認
- ・他サービスへの移行や連携
- ・保護施設通所事業（通所）
- ・日中活動の支援や子育ての相談

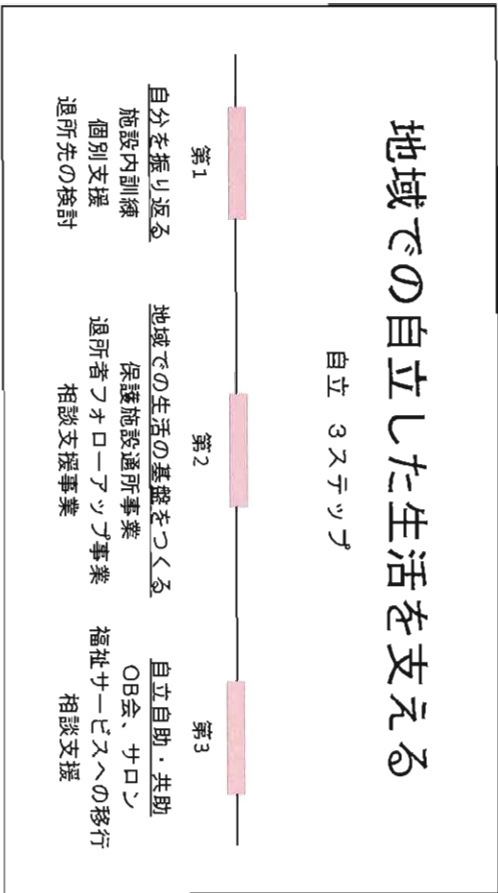


## それでも、 一人暮らしがしたいB男

療育手帳に不安障害  
引きこもりがち、生活も仕事も支援がいる。

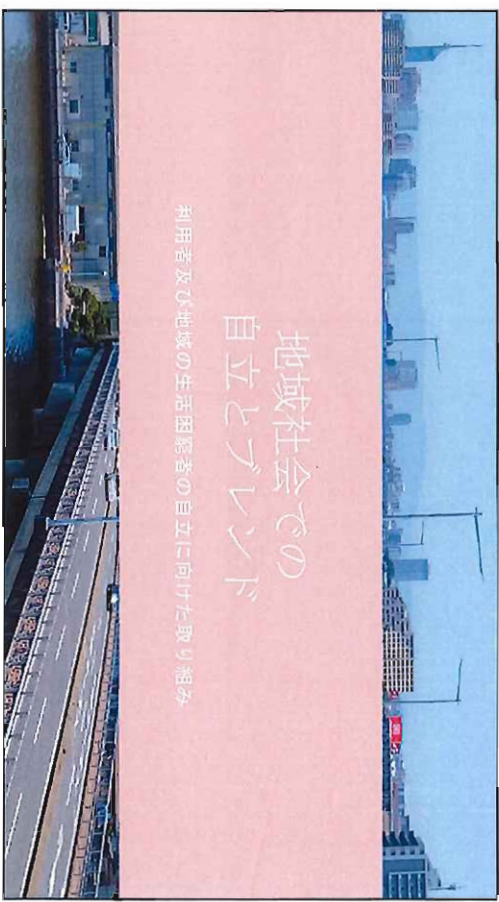
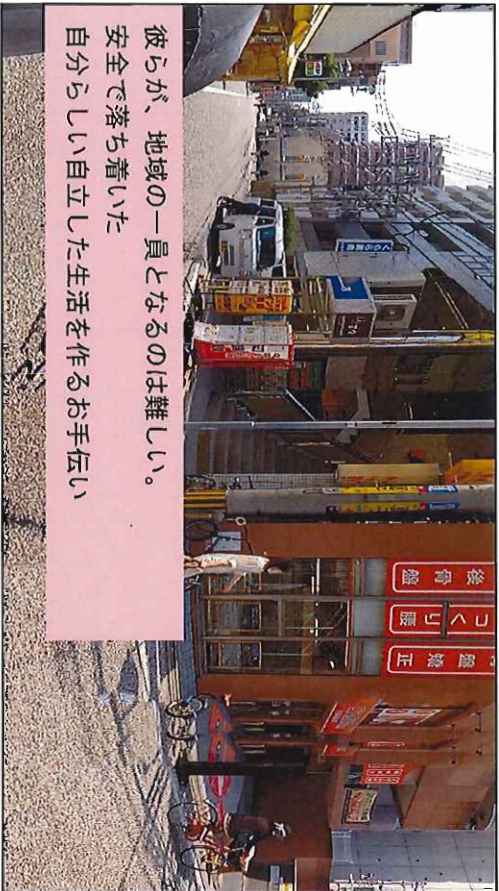
- ・居宅生活訓練にて引きこもりとなる
- ・障がい者雇用で就職
- ・グループホームへ移行
- ・仕事がお休みに（通所事業を利用）
- ・仕事の再開と生活保護の廃止
- ・一人暮らし（自立生活援助）
- ・赤い羽根事業にて金銭預かり支援





退所者の支援で私が大切にしていること  
この場所が住処となるように、  
彼らを地域にブレンドさせていけたら。





ご清聴ありがとうございました。



【第4テーマ】

「利用者の権利を守る取り組み」

～チェックシートを通して芽生えた職員の絆～

すみよし 田原 清美

Memo

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

# 「利用者の権利を守る取り組み」 ～チェックシートを通して芽生えた職員の絆～

宮崎県 救護施設すみやし  
生活支援員 田原 清美



## 救護施設すみやし 施設概要

経営主体 社会福祉法人 宮崎福祉会  
(保有所×9 児童養護施設×1 救護施設×1)

名称 救護施設すみやし (旧宮崎養護院)

開設 昭和21年12月

定員 82名

実施事業

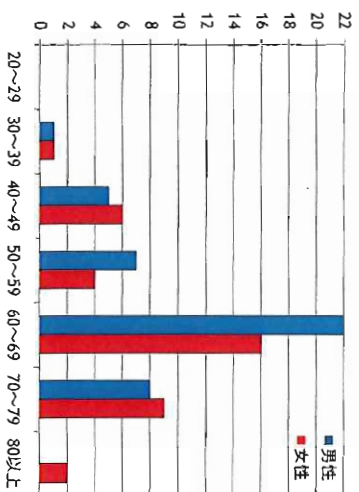
- 一時入所事業
- みやざき安心センターネットワーク事業
- 居宅訪問事業
- 居宅生活訓練事業
- 生活困難者就労訓練事業

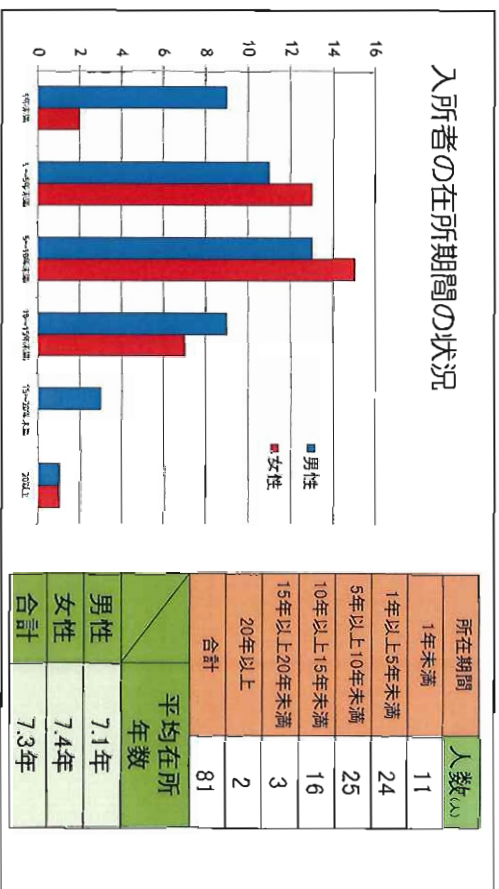
所在地 宮崎県宮崎市島之内10598番地2

## 入所者の年齢状況

	人数
男性	43人
女性	38人
合計	81人

	平均年齢
男性	64.2歳
女性	62.8歳
合計	63.5歳





### 入所者の障がい等の状況

	重複障害						その他	計	
	身体障がい	知的障がい	精神障がい	身体・知的	精神・身体	精神・知的			
男	4	6	23	0	4	4	0	2	43
女	2	2	25	0	0	5	0	4	38
計	6	8	48	0	4	9	0	6	81

虐待防止に向けた「すみよし」の取り組み

虐待防止委員会の立ち上げ

虐待防止マニュアルの作成

虐待防止のためのセルフチェック

利用者の権利が守られていれば  
結果として虐待も防げる

虐待防止委員会  
↓  
権利を守る委員会



## セルフチェックから職員の悩み・思い

同じ内容の訴えが多い利用者への対応を雑にしてしまう。

感情が抑えきれない時がある。

自分に余裕が無かったり、ストレス等、その時の自分の感情で対応してしまう。

勉強不足や知識不足で利用者と上手に聞かれたい。

利用者の事を理解しておらずキチンと対応できていなかった。

つい「ちよっと待って」と言ってしまう。

「ちよっと待って」と言った後、対応するのを忘れしまった。

## 話し合い

ストレスがあったり、自分に余裕が無く感情のコントロールが出来そうにない時は、他の職員に対応を変わってもらおう。

利用者に対し厳しい事を言ってしまうのは、対応している職員の責任感が強いからだと思うが、責任を負わなければならぬ程の支援は必要ないのである。

悩みがあったら話を聞いて欲しい。

担当職員だけが個別支援に取り組むのではなく、他職員と連携を図りながら互いに助け合い、全職員で支援が出来れば良いと思う。

訴えの多い利用者のAさんの対応に困った時は、T職員に対応を頼むと上手に対応してくれるよ。

など、いろんな視点からの前向きなアドバイス

支援がうまくできない

「できない」にも種類がある

人によって違った理由や悩み

理由や悩みについて、ひとつずつ聞わっていく必要性

職員全員で話し合える時間を作る

## 勉強会（利用者の理解）



視点の変化

## 知識の深まり



「利用者の権利を守り、虐待を防ぐには・・・」

利用者に携わる職員としての理念を理解し、利用者本位の支援、サービスの向上に努める。

支援を一人で抱え込まないよう、全職員で利用者へ関わりの支援を行う。

利用者を尊重し、職員同士も尊重し合えるコミュニケーションを図る。

ご清聴ありがとうございました。

セルフチェックシート

職員の悩み・問題



みんなで関わる

悩みや問題を解決

職員同士の絆

「利用者の権利を尊重し守る」

第44回 九州地区救護施設職員研究大会 参加者名簿

NO	県名	施設名	参加者名	職名	備考
1	福岡県	野の花	山下 亨	施設長	
2			松田 孝幸	主任	
3			荒巻 三四朗	支援員	
4			佐藤 進	支援員	
5			彌田 将之	支援員	
6			塩原 光	支援員	
7			相場 翔太	支援員	
8			高井 義明	看護師	
9			新里 朋子	支援員	第3テーマ意見発表
10			溝越 菜南	支援員	
11			北原 那瑞菜	支援員	
12			山口 結妃	支援員	
13		愛の家	安部 勇	支援員	
14			永井 奈保美	支援員	
15			中村 秀明	支援員	
16			藤井 秀美	支援員	
17		宇治野 和範	次長		
18		仁風園	田吹 暢浩	主任指導員	
19			鹿毛 智文	指導員	
20			増崎 里香	指導員	
21			出口 開	指導員	
22		梅寿園	前田 多聞	施設長	
23			平野 哲章	主任	
24			山口 涼太	指導員	
25			平岡 久典	指導員	
26		第2優和園	筒井 龍広	主任	
27			和田 徳行	施設長	
28			小園 美樹	指導員	
29			神崎 達郎	指導員	
30			岡田 晋治	指導員	
31		ひびき園	後藤 真理	事務員	
32			廣川 英樹	施設長	
33			清原 昇二	主任	
34		なのみ	石田 千枝	副主任	
35			森田 英二	施設長	
36			田島 豊	生活支援課 主任	
37			山内 幸司	生活支援課 主任	
38	佐賀県	かんざき日の隈寮	大島 毅	施設長	
39			真崎 小百合	課長	
40			志波 伸明	係長	
41			姉川 久子	係長	
42			田中 貴大	副係長	
43			向野 亜里紗	主任	第1テーマ意見発表
44			井上 早帆	副主任	
45			黒岩 友樹	副主任	
46			口石 美優	副主任	
47			天本 薫	生活支援員	
48		西村 夏央	生活支援員		
49		しみず園	駄原 博美	園長	
50			真崎 靖行	事務長	
51			成富 俊彦	支援課長	
52			山下 正大	総務課長	
53			南里 眞一郎	地域連携副課長	第3テーマ意見発表
54			國司 稔生	支援係係長	
55		今村 公紀	支援係主任		
56		田中丸 雄一	支援係主任		



57	佐賀県	しみず園	池田 遥	支援係主任	
58			樋口 徹	支援係副主任	
59			松尾 拓也	支援係副主任	
60			中野 達也	支援係副主任	
61			松田 満子	支援係副主任	
62			森 高子	支援係副主任	
63			平方 志久史	生活支援員	
64			北田 智士	生活支援員	
65			松尾 健太	生活支援員	
66			遠田 せい子	生活支援員	
67			村田 隆之	生活支援員	
68			古賀 順子	生活支援員	
69			田代 康博	生活支援員	
70			坂田 光	生活支援員	
71			宮原 結希	生活支援員	
72			中務 紗茄恵	生活支援員	
73			小路 ナル子	介助員	
74			出口 由比子	保健係主任	
75			柳野 里奈子	看護師	
76			秀島 サカ枝	事務員	
77	千綿 花恵	事務員			
78	芹田 麻衣子	事務員			
79	内田 忍	給食係係長			
80	松尾 淳	栄養士			
81	長崎県	あいこう園	高比良 宏輔	園長	
82			林田 祐一郎	主任	
83			吉村 大輔	副主任	第2テーマ意見発表
84			吉田 賢吾	生活支援員	
85			島田 高志	生活支援員	
86			中沼 美咲	生活支援員	
87			田中 美紀	相談支援員	
88			中ノ瀬 咲羅	相談支援員	
89			森田 勝	施設長	
90		宮本 武志	生活指導員		
91		峰 圭佑	生活指導員		
92		松本 奈美	介護職員		
93		里 紗貴子	介護職員		
94		宮川 寛貴	事務長		
95		あじさい	野原 恵	主任	
96			大須賀 淳	副主任	
97			大曲 知彦		
98			井上 章		
99	大分県	湫泉寮	赤坂 智恵	寮長	
100			真川 和彦	副寮長	
101			伊藤 菜理	主査	
102			高堂 尚子	支援員	
103			小平 健太	支援員	
104			岩崎 里恵	副施設長兼主任指導員	
105		廣田 野志	指導員兼事務員		
106		難波 悦与	副主任支援員		
107		三浦 洋子	支援員		
108		後藤 里美	支援員		
109		河野 真弓	主任看護師		
110		佐藤 恵	栄養士		
111	菅生 八千代	調理員			
112	熊本県	銀杏寮	松尾 歩	施設長	
113			中山 真	指導員	第1テーマ意見発表
114			森野 貴恵	指導員	
115			桐原 敦紀	介護職員	
116			東 夏美	介護職員	

117	熊本県	しらがね寮	小田 淳	施設長	
118			前田 望	栄養士	
119			原口 恵介	介護職員	
120			山口 由美	介護職員	
121		天草園	薪本 健作	生活支援員	
122			黒田 美咲	看護師	
123			松中 艶子	主任介護支援員	
124			沼田 博道	介護支援員	
125			津崎 光加梨	栄養士	
126		千草寮	坂口 浩司郎	生活支援員	
127			兵藤 晃子	看護師	
128			鮫島 信江	副主任介護支援員	
129			北里 美名子	副主任介護支援員	
130		菊池園	大塚 実	介護支援員	
131			菅原 あかね	看護師	
132			中林 とし子	調理員	
133			三笠 広宣	介護支援員	第3テーマ意見発表
134		野坂の浦荘	永山 博久	荘長	
135			田上 成美	主任生活相談員	
136			前川 真	生活相談員	
137			鶴川 君子	生活相談員	
138			小川 幸子	副主任生活支援員	
139			高田 暁仁	副主任生活支援員	
140			真和館	藤本 和彦	施設長
141		藤本 知彦		副施設長	
142		平畑 佳朗		総務課長	
143		今池 有香		指導・研修係長	
144		坂本 豪		指導員	
145		高尾 純子		指導員	
146		二上 達也		指導員	第2テーマ意見発表
147	西村 宏	医務班長			
148	野崎 龍之介	生活支援員			
149	谷口 三保恵	生活支援員			
150		松岡 志乃	調理員		
151	宮崎県	清風園	中村 俊代	園長	
152			樋渡 康裕	福祉係長	
153		すみよし	栗田 正志	施設長	
154			後藤 洋貴	総務企画課長	
155			泉 健士朗	地域支援課長	
156			塗木 美弥	生活支援課長	
157			小川 信一	生活支援係長	
158			平田 論里	看護係長	
159			河野 いずみ	生活支援係長	
160			緒方 哉子	地域支援係長	
161			田原 清美	生活支援員	第4テーマ意見発表
162	鹿児島県	ときわの丘	阿久根 森喜	施設長	
163			内倉 彩	指導員	
164			小島 麻央	介護職員	
165			赤塚 貴	介護職員	
166	沖縄県	よみたん救護園	上間 丈文	園長	
167			金城 善史	生活指導員	第1テーマ意見発表
168			古波蔵 尚子	生活指導員	
169			平山 啓子	PSW	
170			新崎 えり子	管理栄養士	
171			与儀 喜美枝	看護師	
172			仲元 浩哉	介護主任	
173			砂辺 美和子	介護主任	
174			山川 南	介護員	
175			岸良 絵里	介護員	
176		いしみね救護園	川原 伸荘	施設長	

177	沖縄県	いしみね救護園	城間 健司	精神保健福祉士	
178			田端 健	介護主任	
179			宮里 郁子	看護師	
180			嘉数 尚子	介護員	